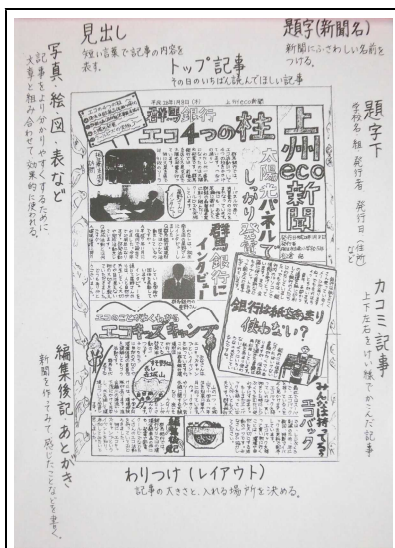
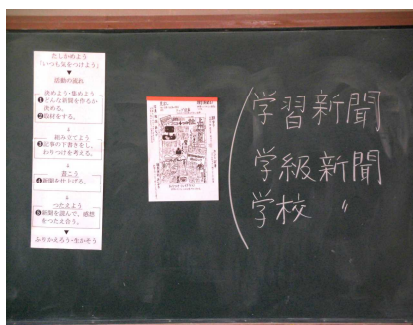




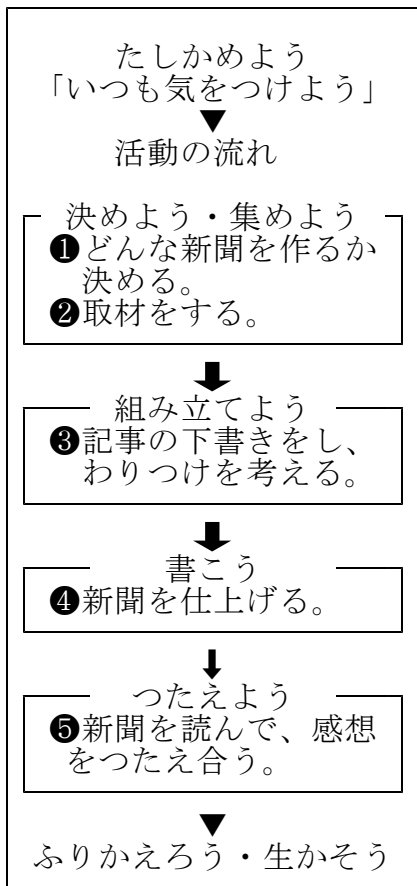
4年生が外部講師による新聞作りの学習

4年生が、校外学習で清掃センター（5月18日・木）、消防署と浄水場（6月12日・月）を見学して調べたことを基にして、国語科の単元「調べたことを整理して書こう」の学習で、「学習新聞作り（全15時間）」に取り組んでいます。

毎年、新聞作りの指導でお世話になっている金口道先生を外部講師（スクールサポートボランティア）に招いて、学級担任とのチームティーチングが6月6日(火)からスタートしました。



【授業初日のTTの様子】



【金口先生談】 集中して作業に打ち込めるクラスですね。「つたえよう」で友達が完成させた新聞の良さに触れて、「ふりかえろう・生かそう」で次の新聞作りへの課題が分かり、意欲が高まると、2学期の新聞作りでは、さらに良いものを作れると思います。

4年生有志児童が紙芝居の読み聞かせ

みんなの前で紙芝居を読みたいという4年生有志（桐口かきさん、高口朱羽さん、箕口レコさん、山口かこさん、綾口翠さん、本口ひりりさん、向口まろさん、大口愛さん、田口葵さん、藤口竜さん）が、読んで欲しい紙芝居のリクエストを募って予定表を作り、休み時間に図書室で、自主的な活動として読み聞かせを行っています。

よんでほしいかみしばい	
5月26日	リンカーン
5月26日金	リンカーン (✓)
6月2日金	子かんのほさみは (○)
6月9日金	りすの森に春がきた (○)
6月16日金	きたないひめ (○)
6月23日金	かみしばい (○)
6月30日金	どちかやさいか

【リクエスト予定表】



【箕口さん・高口さん・綾口さん】



【藤口竜口さん】

第1回北小っ子学びウィーク

望ましい習慣 … 一度身に付いてしまえば鬼に金棒

6月12日(月)から18日(日)までの1週間、〈第1回北小っ子学びウィーク〉が行われています。6月5日付けの保護者宛通知で趣旨と取組方法をお知らせしましたが、この取組の趣旨について、再度確認してみたいと思います。

- ◆ この取組を通して、家庭学習（宿題・自主勉強・読書）の習慣を定着させる。
〔低学年30分・中学年40分・高学年60分以上〕
- ◆ この取組を通して、基本的な生活習慣を定着させる。
〔早寝・早起き・朝ご飯、アウトメディア、歯みがき等〕
- ◆ 親子で毎日取組状況を評価・確認することを通して、今後の家庭学習や家庭生活の工夫・改善に役立てる。



子どもたちの学習量は、小学校低学年、中学年、高学年、中学校1・2・3年（高校入試）と、これから右肩上がりに増えていきます。また、それと軌を一にするように、限られた時間を上手に使うことが一層求められるようになっていきます。子どもたちが学校にいる間の学習量は皆同じで、ゲームやSNSをすることも絶対にありませんが、下校してからの時間の使い方は各人各様で、帰宅してから眠るまで（睡眠時間は8時間以上確保）の限られた時間をどのように使っていくかの違いによって、いろいろな差が生じてきます。

例えば、毎日1時間家庭学習を行う6年生と毎日2時間家庭学習を行う子6年生では、1年間に365時間の学習量の差が生じますが、これを小学校の45分授業に換算すると486回分の授業時間に相当します。そして、この486回は、4月から運動会までの6年生の授業回数475回よりも多いこととなります。

授業と家庭学習では学びの質が違いますから、単純に比較することはできませんが、毎日1時間であっても、1年間では膨大な差になることがお分かりいただけると思います。家庭での有効な時間の使い方については、この〈北小っ子学びウィーク〉の取組のように、学校でも折りに触れて指導していますが、もっとも大切なことは、保護者が子どもに寄り添って励ましながら、〈家庭学習の習慣〉と〈基本的な生活習慣〉がしっかり身に付くように、子どもの実態に合わせた関わり方を模索していくことです。

“望ましい習慣”というものは、“一度身に付いてしまえば鬼に金棒”といわれるくらい貴重な財産で、一度身に付いた“望ましい習慣”は、その子どもを一生支えてくれます。したがって、できるだけ早く、子どもが比較的素直に保護者の言うことを聞く小学校の間に身に付けさせることがベストです。

反抗期を迎えた子どもに、「早寝・早起きをしなさい」「ゲームの時間を減らしなさい」「自主勉強はやらないの」などと言っても、聞く耳はもっていないと考えた方がよいでしょう。中学3年の秋頃になって、やっと自分を取り巻く厳しい客観的な状況が分かってくると、保護者の言葉に耳を傾けるようになる子どもも出てきますが、もうその時点では、その子どもに残された時間は、あと僅かしかありません。

中学生の保護者が、「うちの子は勉強しなくて本当に困ります」とこぼしているのをよく耳にしますが、子どもが小学生の時に本気で関わる努力をしないで、手をこまねいたまま、とうとうそこまで来てしまった誠に残念なケースであるといえます。

こんなことを思っている保護者の方はいませんか？

「うちは共働きで、両親ともに忙しいので、とてもとても子どもの家庭学習の面倒までは…。担任の先生の指導にお任せしています」。

でも、小学校6年間の保護者の子どもへの関わり方次第で、“望ましい習慣”の定着の度合いに大きな差が生じてしまうとしたらどうでしょうか…。そして、その差が、その後の中学校生活3年間に大きな影響を及ぼし、結果として子どもの人生がある程度決まってしまうとしたらどうでしょうか…。

子どもが小学生の時の保護者の子どもへの関わりは、とても重要です。

しかし、どの子にも通用する一般化された方法論やそれを言えばすぐに子どもが変わるような魔法の言葉は存在しません。したがって、粘り強く試行錯誤で関わっていくしかないのです。仕事で忙しい保護者はたくさんいると思いますが、世の中に忙しくない仕事というのではないと思いますので、保護者の皆さんも時間をやり繰りしながら、お子さんに（北小っ子学びウィークに）積極的に関わっていただきたいと思います。

